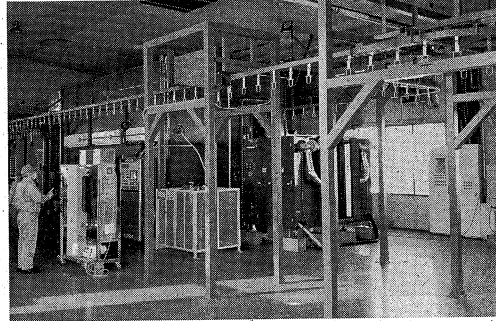


山形メタル

完全無機塗装
金属パネル量産

火災でも有毒ガス出ない特性

【山形】山形メタル（山形県新庄市、庄司正人社長）は完全無機塗装による建築用金属パネルの量産体制を整えた。ムラのない均一な塗装の安定性を高めた上で、2023年度内に駅舎や商業ビル、病院、公共施設などを対象に建築物への採用を目指す。特に火災の際、有毒ガスを発生しない特性を訴求し、地下構造の施設内での普及を促す。



塗装の安定性を高めるための最終調整が
終わり次第、専用ラインで量産を始める

山形県工業技術センター、山形大学などと戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）の採択を受け、量産技術を確認した。本社工場内に約1億円を投資し、塗装と乾燥工程からなる専用ラインを構築。流れ作業で高さ1.5×幅2.5メートルのパネルに塗装が可能。塗装直後の塗膜に

亀裂が入らないよう、精緻に温度制御できる独立した乾燥炉も設けた。近く、安定性を高めるための装置の最終調整を終える。

ケイ酸塩系の水性塗料を使うため、パネルは燃焼せず、鋼板とアルミニウム合金板で国土交通省の不燃認定を取得済み。また紫外線劣化がなく塗り替えが不要で、汚れも落ちやすいというメリットがあるため、屋根や外壁にも適する。さらに環境負荷低減にも寄与。製造中、使用中とも揮発性有機化合物（VOC）

（C）を出さない上、アルミ合金板の場合、「アルミ素地と塗料の密着性が高いため、塗装の前処理が不要になる。より環境に優しい」（今田弘昭取締役）としている。

販売価格は通常の有機塗装パネル比で5割増程度を想定。性能や環境特性、使用時のメンテナンスフリーによるコスト削減効果を総合すれば、十分に競争力を発揮できるとみている。まずは「全駅舎の地下構内の総面積の2割に使ってもらいたい。市場規模は1000億円超ある」（同）として、防災面での特徴を強調していく方針だ。